



メンバーからの ほっとレター

感じもして、自分の気持ちを整理出来た。夫は冷たいと思っただけれど、ほんとは怖かったのではないかと、とも思えた。

その後良い医者に巡り合い治療も始まった。

やはり薬の副作用の関係で体調にも気持ちにも波はある。時にはそのきつさに、どこまで悪くなるのかと気持ちが挫けそうになることもある。こんな状態ではとても受け手は勤まらないと思いつた。「長期休務」としてもらった。

「C型肝炎ですね」と聞いた時「えっ、そうですか…」と絶句した。頭が真っ白になりそのあと医者が何を言ったか思い出せない。それは今から一年半前の出来事だった。

丁度その頃、血液製剤によるC型肝炎のことがテレビで盛んに報道されていたが、他人事として見ていた。

今思えば
3・4年前の
健康診断

で、肝機能の再検査の指示が出ていてその後要観察となっていた。月1・2回嘔吐や下痢があり、時々寝込むこともあったが、更年期の症状のひとつと考え、さほど気に留めずにいた。

しかしテレビの報道や新聞記事を読むうち思い当たる節もあり、意を決して病院を訪れ、冒頭の言葉を聞いたのである。

それから詳しい検査が始まった。思ったより病状は進んでおり「治療にかかっても副作用で苦しみ、途中で中止する人も多い。これから

は6ヶ月に1度コーで癌になっていないかを観察していくしかないですね」と言われ、見放されたような、死の淵を見たような気持ちにして落ち込んだ。

思わず単身赴任している夫に電話をかけた。誰かに受け止めて支えて欲しかった。

C型肝炎と闘っています

「聴いてもらった喜びが復帰への励みに」

しかし夫は「そんな暗い話聞きたくない」と言い、その後は電話にも出なくなりました。夫にも見放されたと感じた私は、「両親は亡くなったし、子供も成人している。夫がこんななんだったらもう治療など何もしなくていいや…」と投げやりな思いになった。

たまたまエンカウンターグループで聴いてもらえるチャンスがあり、ショックや不安、夫への怒りや悲しみを涙ながらに話した。

仲間は黙って寄り添って聴いてくれた。支えられている

でも「話せる場」がある

ことの大切

さを身をも

って知った

今、もう一

度「ぬくもりほっとらいん」の活動に復帰したいという願いを励みに、病氣と闘っていきます。
(M・W)

